

大阪消防



特集 次代につなぐ
震災特集 東日本大震災15年
受託研修レポート
望楼探訪

令和8年

3

No.912

月号

CONTENTS

大阪消防 3

表紙：緊急消防援助隊の訓練に向かう車両

01：コンテンツ／災害概況

02：特集 次代につなぐ

09：人材育成のヒント

10：震災特集 東日本大震災15年

14：ケイボウタイムズ

16：大阪市消防局における受託研修レポート

18：明日に備えて過去に学ぶ

19：住宅用火災警報器で歌おう

20：救急いろは

22：実録!! 調査鑑識

24：We are Rookies !

26：大阪の消防NEWS

27：No more ! 事故

28：望楼探訪

30：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより

31：落語DE火の用心

32：市民表彰

33：Another Voice

34：【職務】ガソリンの「容器」について

36：ソナエの教室

37：現場に活かす！救急救命士国家試験問題

38：消防漢字ガール

39：救急安心センターおおさかだより／編集後記

40：年間索引

大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
1 月中件数	2	4	15	41	62	4	0	1	6	73
令和8年 1 月末累計	2	4	15	41	62	4	0	1	6	73
令和7年 1 月末累計	3	3	20	33	59	3	0	0	12	74
累計比較	▲1	1	▲5	8	3	1	0	1	▲6	▲1

◎救急概況

	救急出場
1 月中件数 (概数)	22,067
令和8年 1 月末累計	22,067
令和7年 1 月末累計	24,547
累計比較	▲2,480

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他
令和8年 1 月末累計	413	159	0	116
令和7年 1 月末累計	456	119	0	117
累計比較	▲43	40	0	▲1

次代につなぐ

つながりは宝、継続は力

総務部長 消防正監 世古口 隆志

事務職員である私が消防職員の皆様へ何かをお伝えするのは恐れ多いのですが、ご依頼をいただきましたので、伝統ある「大阪消防」誌に寄稿させていただくことになりました。この拙文が少しでも皆様のお役に立てば幸いです。

まず、私の41年間にわたる市役所での歩みを振り返りたいと思います。高校卒業後、1年間の浪人生活を経て昭和60年4月に大阪市役所へ入庁し、消防局を含む6所属で勤務してまいりました。

最初に配属された総務局では共済年金や職員の勤務条件に関わる業務に携わり、係長までの25年間で過ごしました。

その後初めて所属間異動を経験し、文化や公園緑化事業そして特別区設置協定書作成や住民投票の準備・実施といった貴重な業務経験を積むことができました。

区役所では課長や副区長として7年間勤務し、地域の防災訓練などを通して消防署の皆様にも大変お世話になりました。

このようにさまざまな部署で貴重な経験を重ね、多くの方々とのご縁をいただけたことは、私にとって何よりの財産となっています。

そして2年前、消防局への異動が決まりました。

着任後は、局庁舎内から25消防署や関連施設を訪問させていただき、どの部署も温かく迎えてくださいました。また、警防部のご配慮で火災現場にも立ち会う機会を得ることができ、隊員の懸命な活動に強い感銘を受けました。

特に、総務部の皆様には、視察の段取りや同行、そして消防に関する様々な知識のご教示など、近くで私を温かく支えていただきました。

改めて振り返ると、消防職員の高い事務能力や意識の高さに日々驚かされるとともに、前向きに業務に取り組む姿勢に深く感銘を受けた2年間でした。

皆様の2年間にわたるご指導・ご支援に感謝するとともに、皆様の力によって消防局が今後さらに発展・進化されることを願っております。

最後になりますが、消防局で得た経験と人脈は私にとってかけがえのない宝です。

私の大切にしている言葉に「つながりは宝、継続は力」という言葉があります。人との信頼関係は、どんな財産よりも大きな価値を持ちます。皆様も是非、良好な人間関係を築き、どんな小さなことでも諦めず続けてください。それがきっと皆様の成長につながるはずです。

私も消防局での経験そして皆様とのつながりを大切にしながら、これからも消防局というすばらしい組織が大阪市民をしっかりと守ってくれていることを発信してまいります。

皆様の今後ますますのご活躍を心よりお祈りし、またどこかでお会いできる日を楽しみにしております。



【略歴】	
S60.04	総務局人事部共済組合
H11.04	総務局人事部人事課 人事係
H15.07	総務局人事部人事課主査
H18.04	総務局人事部担当係長 (人事担当)
H22.04	ゆとりとみどり振興局 文化部文化振興担当 課長代理
H23.04	ゆとりとみどり振興局 緑化推進部協働課長代理
H25.04	住之江区役所政策推進主幹
H29.04	副首都推進局 組織体制担当課長
R02.04	副首都推進局総務担当課長
R03.04	浪速区副区長
R06.04	消防局総務部長



【略歴】	
S59.04	消防学校入校
S59.10	大正消防署
H02.10	東成消防署
H04.10	警防部司令課
H07.10	福島消防署
H09.10	国際緊急援助隊の派遣 (インドネシア森林火災)
H11.04	総務部人事厚生課
H17.04	東淀川消防署救助司令
H19.04	東淀川消防署救助担当司令
H20.04	総務部担当係長 (人事厚生担当)
H23.04	警防部司令課 副参事兼担当係長
H24.04	中央消防署副署長
H25.04	総務部人事課 勤務条件担当課長代理
H26.04	総務部人事課長代理
H27.04	総務部人事課副課長
H28.04	大阪府立消防学校 教頭
H30.04	企画部企画課長
H31.04	淀川消防署長
R02.04	市危機管理室長
R04.04	救急部長
R05.04	企画部長
R06.04	消防次長



託す

消防次長 消防正監 田島 康男

今回の投稿依頼を受け、改めて昭和、平成、令和と駆け抜けた42年間の消防人生を振り返ることにしました。

昭和59年4月消防学校へ入校し、同年10月に大正消防署鶴町出張所へ配属となりました。その後は救助隊員を目指し、近畿大会や全国大会への出場、IRT隊員への登録、さらには海外派遣などを目標とし、全力で挑み続けた20代、30代前半でした。

平成17年、東淀川救助隊長となり隊として「立体検索救助」を考案し、職員提案から始まり、何年もの年月と多くの職員の協力を経て「立体検索救助操法」として救助ノートにまで掲載する運びとなったことは、携わったすべての方に感謝するとともに約12年間の救助隊歴の集大成となり、私にとってかけがえのない財産となりました。



様々な業務を経験させていただきました。

この消防人生を振り返り、私自身が大切にしてきたことは『人間力』です。人間力とは、知識やスキルだけでなく、対人関係能力や自己管理能力を含めた、人としての総合的な力を指します。具体的には他者と協力し円滑な関係を築くためのコミュニケーション能力やリーダーシップなどが挙げられます。これらすべてを完璧に備えるのは難しいかもしれませんが、日々意識して取り組むことが何よりも大切だと感じています。

特に、対人関係能力は欠かせない要素です。さらに、以前この大阪消防誌にも掲載した「間合い」（距離感）の意識が大切です。この「間合い」とは、武道などで用いられる自分に有利な距離を指すのではなく、相手が心地よいと感じる距離感を保つことが重要であって、誰にでも気軽に意見や相談ができる、そんな組織を目指すことが理想だと思っています。

これから的大阪市消防局、重点目標にもあります「安全文化の醸成と安全管理の徹底」を最重要課題と位置づけ、業務改善や人材育成の推進にも一層取り組んでいただきたいと思います。

DXやAIの活用もちろん重要ですが、最終的に大切なのは「人」です。今後の大阪市消防局の更なる発展を皆さんに託します。よろしくお願いいたします。

最後に、42年間の消防人生においてご支援ご協力いただいたすべての皆様、そして家族へ心から感謝いたします。ありがとうございました。



和衷協同

中央消防署長 消防正監 居垣 裕之

昭和59年に高校卒業後、大阪市消防局に入局して42年。中央消防署長の任を最後に、今年度末をもって長い消防人生が幕を閉じます。

この度、大阪消防誌に寄稿の機会をいただき心より感謝申し上げます。消防人生を振り返り、拙い内容ではありますが思い出の一部を綴らせていただきます。

最初の配属先の住之江消防署では、新人の雑務や訓練に明け暮れる日々で、先輩方の時に厳しい指導に辛い思いをしながらでも充実した毎日でした。消防士長昇任後は、警防部計画課（現警防課）に配属となり、希望していた救助隊員とは異なって初めてのデスクワークとなりました。右も左もわからず、生活リズムも変わり、大きな戸惑いを感じていました。

今振り返ると、本部勤務が貴重な経験とは分らず、当時はまだ年齢が若く、現場で活動したい気持ちが強くあったので、実現するための唯一の手段である司令補試験合格を目指し、業務の手も抜かず努力しました。

結果、司令補に昇任し消防署に配属されるも、その充実した日々は長く続かず、3年後に警防部救助課（現警防課）へ異動、さらに3年半後には全国消防長会事務局への出向と、またもや現場活動から離れることに。

出向先では慣れない仕事に加え、事務調整で厳しい叱責を受けることもあり、心身ともに疲弊していました。「自分は何のために働いているのだろう、憧れの消防で誇りもやりがいも感じない、現実から逃げたい」と胸に抱いていた折、ある先輩から「消防は市民の期待に応えるため活動する。現場の最前線に立つ隊員の活動が要だが、その隊員を支え、組織体制を充実・強化する仕事も非常に重要で、誰かが役を持つ。君が選ばれてその一端を担っている」と諭されました。

その言葉を受けて自分なりに考え方を改め、慣れない中でも自分の業務が何かを通して隊員のより良い活動に繋がると理解でき、この状況は未来永劫と続くわけではなく、いずれは本望の現場活動ができると思うと、気持ちが少し楽になったことを覚えています。

その後は管理職となり、様々な部署で勤務しましたが、改めて消防の仕事は現場に限らず、どの担当部署であっても市民の期待と信頼に



応える消防を目指し、与えられた役割に最善を尽くすことで達成感とやりがいを見出せるとつくづく思いました。

大阪市消防局を支える後輩職員の皆さん、それぞれの多様な業務に心を屈せず、誇りを持ち、心を一つにした消防業務への取り組みを期待します。

最後に、これまで支えていただいた皆様のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、大阪市消防局の更なる発展と職員皆様のご活躍を、心よりお祈り申し上げます。



温と恩

予防部長 消防正監 山尾 幸司

本年3月末日で退職を迎えるにあたり、寄稿の機会を頂戴しましたことを感謝申し上げます。

「次代につなぐ」とのお題で消防人生を振り返る機会を頂戴するも、私は元来、過去を振り返ることに傾着無く、牛歩であっても前へ進みたい性分が濃い人間のように思います。

今回こうした機会を頂戴し、あらためて我が消防人生の記憶を辿ってみますと、辛かった、苦しかった記憶より、むしろ楽しかった、面白かった記憶ばかりが只々蘇ってまいります。



思えば40年前、某学在学中に自己の専攻と自身の職業観に隔たりを覚え、一念発起して当局を受験し、消防の道へ飛び込んでまいりました。以後、多くの人と出会い、厳しくも優しく、たくさんの方々から温情を注いでいただき、人として育てていただいた気がしています。

駆け出しの頃のエピソードの1つに、初任科を経て署へ配置となり幾月が過ぎた頃、古手の大先輩から「どうや慣れたか？ 中身はまだまだでも世間から見たらもう一人前のプロやからなあ」と声を掛けていただき、続けて「プロって何かわかるか？」と尋ねられ、あまりにも唐突で、しかも漠然とした質問に対し、私は質問を上回る漠然さであわあ何かを答えた記憶があります。

そして、この後の先輩の「プロ野球選手って150キロの球(当時の球界では150キロ台が最速の時代)を楽々打つやろ。素人にはできへんことを平然とやってのけるねん。けどいっこも驕(おご)らへん。だからプロやねん。」という一言が私の記憶にはっきりと残っています。当時の私ではこの言葉の意味を理解するに至りませんでした。以後、歳を重ねるほどにこの言葉の意味が深く染みるようになってきました。

このように日々の生活の中で先輩方から授かった、飾らないプロ意識、それに通ずる多くのヒント、人に対する温情、常に誰かが気にかけているという安心感は、私の人生を豊かにし、人として、そしてプロとしての生き方、歩み方の軸として私に備わっていったような気がします。



この度の退職にあたり、みなさんに次の言葉を託します。

局是である「明・強・敏」に「温情(温)」と「周りのの方々への感謝・気遣い(恩)」を消防士のアイデンティティとして加えていただき、人を以て為せる組織であることを忘れず、驕ることなく、周りの人に情を還元できる消防人となってください。

大消人生を一片の悔いなく過ごさせていだきましたことに深く感謝申し上げますとともに、皆さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます。



【略歴】	
S59.04	消防学校入校
S59.10	淀川消防署
H08.10	西消防署
H13.10	北消防署
H17.04	警防部警防課
H23.04	西成消防署救助司令
H24.04	市危機管理室担当係長
H26.04	警防部警防課担当係長 (計画)
H27.04	警防部警防課担当係長 (警防)
H29.04	総務省消防庁 (国民保護・防災部 航空専門官)
R01.04	警防部警防課 計画担当副課長
R01.08	企画部企画課 施策調整担当副課長
R03.04	警防部警備方面隊長兼 指令管制業務担当課長
R04.04	警防部警防対策担当課長
R05.04	警防部警防課長
R06.04	此花消防署長



この時、再発防止策の検討を進める中で強く感じたことは、事故を防ぐためには「人はミスをする生き物」であることを素直に認め、「小さなミスを重大事象に発展させない」ことが重要であること、そして先例やしがらみにとらわれない「実効性のある対策」が必要であるということです。

重点目標に掲げられている「安全文化の醸成と安全管理の徹底」は一朝一夕にはなし得ない大変難しい取組だと思います。次代の新たな発想と行動力で、重大事故が二度と起こらない風土と仕組みを構築していただくことを願います。

消防防災ヘリの重大事故は、群馬県の事故を最後に発生していません。私もそろそろ・・・という時まで無事故が続けば、あの時の答え合わせができるのかなと思っています。

次代の力で、大阪消防が益々発展する様子を楽しみにしています。
たくさんの良い思い出を作ってください。

伝えたいこと

此花消防署長 消防正監 井本 登已彦

消防生活を終えるにあたり、「次代につなぐ」への寄稿の機会をいただき、次代の皆さんに何をつなぐことができるのか考えました。

この42年間で思い浮かぶのは、先輩、同僚、後輩の皆さんにご迷惑をおかけしたことや（心当たりのある方が、たくさんおられると思います。本当にすみませんでした。）、「こうしとけばよかったな」と思うことなど、反省することばかりですが、お伝えできることを絞り出したいと思います。



先ずは、大阪消防は良い職場だということです。

50歳前後に市危機管理室と総務省消防庁で勤務させていただき、関係省庁や関係機関との調整を通して、内部にいた状態では分からない大阪消防の良さを痛感しました。

勤務中、しんどい・辛いこともあります、すれ違うたびに気持ちの良い挨拶が飛び交い、何事にも前向きで、そして何より「人を助ける」という大きな目標で思いが通じる、こんな素晴らしい職場は、どこにもありません。

時代と共に、働き方に対する考え方は大きく変化します。良いところを残したうえで、若い皆さんの感性で、より魅力のある職場にバージョンアップしていただきますよう、どうかお願いします。

次は、やはり「安全」についてです。

昨年8月に発生した殉職事故に伴い、局内で様々な取組が進められていますが、私自身、総務省消防庁で消防防災ヘリの墜落殉職事故に関わりました。

当時は消防防災ヘリの事故が相次ぎ、平成21、22年の墜落事故では8名の方が亡くなり、着任直前の平成29年3月には、9名の方が亡くなる長野県防災ヘリの墜落事故が発生しました。そして、自ら事故対策を行う中、平成30年8月に9名の方が亡くなる群馬県防災ヘリの墜落事故が発生しました。

この時、再発防止策の検討を進める中で強く感じたことは、事故を防ぐためには「人はミスをする生き物」であることを素直に認め、「小さなミスを重大事象に発展させない」ことが重要であること、そして先例やしがらみにとらわれない「実効性のある対策」が必要であるということです。

重点目標に掲げられている「安全文化の醸成と安全管理の徹底」は一朝一夕にはなし得ない大変難しい取組だと思います。次代の新たな発想と行動力で、重大事故が二度と起こらない風土と仕組みを構築していただくことを願います。

消防防災ヘリの重大事故は、群馬県の事故を最後に発生していません。私もそろそろ・・・という時まで無事故が続けば、あの時の答え合わせができるのかなと思っています。

次代の力で、大阪消防が益々発展する様子を楽しみにしています。
たくさんの良い思い出を作ってください。



【略歴】	
S59.04	消防学校入校
S59.10	城東消防署
H02.10	阿倍野消防署
H08.10	国際緊急援助隊の派遣 (エジプト・アラブ共和国 ビル崩壊事故災害)
H09.10	北消防署
H12.10	警防部救助課
H15.04	警防部警防課
H19.04	警防部 (警防担当)
H19.04	総務部 (施設・装備)
H20.04	警防部警防課担当係長 (機動指揮支援)
H22.04	西消防署救助担当司令 兼警防部担当係長 (特別救助)
H24.04	警防部警防課担当係長 (消防救助装備)
H25.04	警防部警防課担当係長 (警防)
H27.04	生野消防署副署長 (警防)
H29.04	生野消防署副署長
H30.04	総務部副参事 (柏原羽曳野藤井寺消防組合 警防課長)
R02.04	警防部警防対策担当課長
R04.04	警防部司令課長
R05.04	東淀川消防署長
R07.04	北消防署長



を自らが率先して推進していくことを心掛けました。

私は、「消防士になって本当に良かった」。これまで私の消防人生で共に喜び苦勞し、そして支えていただいた皆様の深い「思いやり」や「人情」に対し、あらためて感謝を申し上げますとともに、次代の皆さんに思いを託し、大阪市消防局の発展と皆様のご活躍、ご安全を祈念いたします。

想いをつなぐ

北消防署長 消防正監 大塚 通寛

これまで幾多の災害や事故現場を仲間と共に乗り越えてきた日々は、決して平坦な道のりではありませんでしたが、振り返れば全てがかけがえのない経験で、誇り高き時間でもありました。今回、私の消防士としての思いを伝える機会を頂きましたことに感謝いたします。

42年前、消防の事など何一つ知らずにスタートした消防人生でしたが、自分が学んだ知識・技術・鍛えた体力により、人が助けを求める最後の砦として、人に寄り添い救う、救助のエキスパートである消防士に魅了され、コツコツと努力を積み重ねました。

災害活動では、平成2年、西成暴動での駅火災等の消火活動。平成7年、阪神淡路大震災で神戸市長田区での消火・救助活動。平成20年、機動指揮支援隊時代の多発する硫化水素自損事案対応、死者多数の浪速区ビデオ店火災や此花区パチンコ店の放火火災など、過酷な災害現場を経験しました。

災害以外では、警防・救助面で各署救助隊の巡回訓練指導、警防資器材の買い入れ、旭・西淀川消防署に訓練塔を設置、施設課では現場外套の更新など、妥協なく安全にこだわった装備や資器材の導入に考え悩んだ時代が懐かしいです。

中でも平成8年10月にエジプト・アラブ共和国で発生した、ビル崩壊事故災害へ国際緊急援助隊の救助隊員として派遣された際、「日の丸」を胸に付け、鉛のような重いプレッシャーを背負いながら出場しました。現場は足元が悪く、瓦礫除去と繰り返し必要救助者の搬送に無限の体力が必要だと感じ、気力を振り絞り、一人でも多くの要救助者を早く助け出したい、絶対にあきらめないという気持ちで活動した経験は、これまでの私を突き進ませる原動力となっています。

東日本大震災や石川県能登半島地震に派遣された皆さんも、そのような事を感じたと思います。その時の気持ちを忘れず糧としてあらゆる業務においても頑張ってください。人のために自ら鍛錬したことで、人を救う、救う手助けができる。こんな素晴らしい仕事はないと伝えたいです。

署長となり、職員に発信したメッセージで「全職員が笑顔で出勤し、快く前向きに仕事に取組み、笑顔で無事家族のもとへ帰る」そのために何が必要か、常に皆で話し合える風通しの良い職場風土づくり

人材育成のヒント Vol.12

記憶と学習

こんにちは、高度専門教育訓練センター人材育成担当です。

このコーナーでは人材育成を推進するにあたり、指導をする上で役立つ「ヒント」を掲載しています。指導者としての能力向上の一助となり、職場でのより良い人材育成につながることを願っております。

－ 記憶とは －

物事を忘れない、過去の経験や情報を必要時に思い出すなど、日常生活には欠かせない記憶。近年の研究では、脳の記憶容量は約2.5ペタバイトと推定されており、これはスマートフォン（128GB）約20,000台分の情報を記憶できる計算になります。必要のない記憶は積極的に忘れ、重要度で優先順位を付け、記憶同士を関連付けて圧縮するといった整理機能があります。

記憶は3種類に分類されます。五感で得た情報を1～2秒程覚える感覚記憶、電話番号などを一時的に覚える短期記憶、半永久的に忘れない長期記憶です。

短期記憶の中で、印象的だったことや何度も繰り返したことが、長期記憶として脳に深く定着し、長期間保持されます。以下の長期記憶の種類を理解し、指導内容が部下・後輩の長期記憶として確実に定着するよう工夫しましょう。

長期記憶の種類

エピソード記憶

●特別な出来事や個人的な体験により思い出として記憶されること。
例) 卒業式・旅行 ストーリー性があることで定着しやすい。

意味記憶

●よく知られている知識（社会常識、地名、言語など）
例) 「大阪の県庁所在地は大阪市」「赤の40Mロープは確保用」

手続き記憶

●反復訓練によって獲得、身体で覚えている記憶
例) 「自転車の乗り方」「ロープ結索（巻き結び、もやい結び）」

初頭効果・親近効果

●最初と最後に伝えた内容が記憶に残る。
最初に研修の目的や、最後にまとめを入れると記憶に残りやすい。

記憶を定着させるポイント

① 反復する

話の途中は定着しづらいため、繰り返し反復することで長期記憶となりやすい。「前に言ったやろ」ではなく、何度も繰り返し指導することがポイントです。

② 説明は抽象的でなく具体的に

例えば「記憶容量は 2.5PB」と伝えるより、「スマホ 20,000 台分の情報を記憶できる」と説明する方が長期記憶として残ります。

担当者Tのよもやま話

「昨日はできたのに、今日はいまいち…」そんな経験ありませんか。実は上手いかわない場面ほど脳はよく覚えるものであり、失敗したときになぜ?と考えた瞬間が一番の学びとなります。そして学習した記憶を、訓練で反復し洗練させて、技術として身に付けなければなりません。

「汗をかいてチャレンジする」「頭をひねって考える」「小隊で振り返る」その積み重ねが、現場での自信になります。訓練に終わりなしとはまさにこのことかもしれませんね。

感謝

住之江消防署長 消防正監 松倉 良友

この度、寄稿の機会をいただき、心より感謝申し上げます。

平成2年に大阪市消防学校に入学してから、振り返れば36年の歳月が流れました。

この3月末をもって無事に退職の日を迎えることができますのは、これまで支えてくださった多くの職員の皆様のおかげであり、心より感謝申し上げます。

私は「人を助けたい、少しでも誰かの役に立ちたい」という思いから消防の道を志しましたが、警防の経験は多くはありませんでした。若い頃から予防業務、特に危険物関係の業務に携わってきました。右も左も分らず、消防法令を一から学び、必死



に業務に向き合っていた新人時代を懐かしく思い出します。

当時は消防法令の改正が相次ぎ、危険物許認可事務も膨大なものでした。「働いて、働いて、働いて……」という言葉が自然と浮かぶほど、多忙な毎日であったように思います。そうした

日々の中で身につけた消防法

令の知識や解釈、通達に対する理解は、私の消防人生の礎となりました。

事業所への立入検査の際、防災担当者の方から、忘れられない話を伺いました。「事故や火災を起こせば、会社の存続だけでなく、従業員やその家族の生活まで脅かすことになる。だからこそ法令を守るのは当然であり、何より火災を起こさないことが最優先である。」この言葉は、「なぜ法律があるのか」「誰を守るための規制なのか」を私に強く問いかけ、日々の業務を見つめ直す機会となりました。

消防の仕事は、災害現場だけでなく、日々の立入検査や指導、相談という、一見地味に思える積み重ねこそが、市民の命と暮らしを守っています。特に予防業務は成果が見えにくい分、迷いや不安を感じるかもしれません。しかし、火災や事故を未然に防ぐ一つ一つの積み重ねこそが、消防の尊い使命であると、職務を通じて実感してきました。

これから先、消防を取り巻く環境はさらに複雑になっていきます。そのような時代だからこそ、基本を大切に、人と人との対話を重んじ、自ら学び続ける姿勢を忘れないでください。皆さんが、次代の大阪市消防局を力強く支えていかれることを心より願っております。

私にとって、幸せな消防人生でした。

大変お世話になり、ありがとうございました。

大阪市消防局のさらなる発展と、皆さんのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



【略歴】

H 02.04	消防学校入学
H 02.10	生野消防署
H 03.10	予防部危険物課
H 10.10	此花消防署
H 12.10	自治省消防庁 特殊災害室
H 13.10	総務部総務課
H 18.04	中央消防署担当司令
H 19.04	住吉消防署出張所担当司令 (万代)
H 21.04	予防部担当係長 (地域防火)
H 22.04	予防部担当係長 (危険物)
H 23.04	予防部規制課 担当係長（危険物）
H 24.04	予防部規制課 担当係長（規制）
H 25.04	予防部規制課 担当係長（危険物）
H 26.04	福島消防署副署長（警防）
H 28.04	東成消防署副署長（警防）
H 30.04	予防部規制課副課長
R 02.04	企画部監察担当課長
R 03.04	企画部監察室長
R 04.04	此花消防署長
R 05.04	予防部規制課長
R 06.04	住之江消防署長

